

会 議 概 要 書

審議会等の名称	第8期第1回 磐田市環境市民会議
担当部課名	環境水道部 環境課
会議の開催日時	令和2年11月12日（木）午前10時～午前11時30分
会議の開催場所	市役所西庁舎 3階 304.305会議室
出席者 (職・氏名)	<ul style="list-style-type: none"> ・委員14名 (出席者13名) 佐藤和美、杉浦 聖、伊藤正次、鈴木直仁、砂川利広 菊島昭崇、金原和義、小坂教光、遠藤 正、鈴木弥栄子、北野伸雄 安間美恵子、大竹伸佳（敬称略） (欠席者1名) 山本哲也 ・(事務局4名) 環境水道部長、環境課長、環境保全グループ長 環境保全グループ 副主任2名
議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次磐田市環境基本計画及び環境市民会議について ・意見交換～環境基本計画について～ ・その他
配 付 資 料 等 の 件 名	<ul style="list-style-type: none"> (1) 次第 (2) 委員名簿 (3) 磐田市環境基本条例（資料①） (4) 第2次磐田市環境基本計画冊子 (5) 磐田市環境市民会議ノート
概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・委嘱状交付 ・環境水道部長あいさつ ・委員紹介、職員紹介 ・会長及び副会長の選任について ・会長挨拶 ・第2次磐田市環境基本計画及び環境市民会議について ・意見交換～環境基本計画について～ ・その他

<p>会 議 録</p>	<p>(1) 委嘱状交付</p> <p>(2) 環境水道部長あいさつ</p> <p>(3) 職員紹介</p> <p>(4) 会長及び副会長の選任について</p> <p>佐藤委員が推薦され、全員の承認を得て会長に選任された。その後、佐藤会長の指名により、杉浦委員が副会長に選任された。</p> <p>(5) 会長挨拶</p> <p>(6) 議事</p> <p>①第2次磐田市環境基本計画及び環境市民会議について</p> <p>事務局より基本計画の概要及び市民会議について説明があった。</p> <p>《質問・意見》</p> <p>委員より、基本方針4の目標3について確認があり、事務局が水道有効率について説明した。また、「3R」の読み方について「すりーあーる」か「さんあーる」かの質問があり、状況や団体により呼び方はさまざまであることの説明があった。</p> <p>②意見交換～環境基本計画について～</p> <p>事務局より、自己紹介を含めながら日頃の活動についての紹介と環境基本計画についての意見や感想を求める旨の説明があった。</p> <p>【杉浦委員】</p> <p>自治会連合会では環境関連事業として、年2回環境美化統一行動として河川堤防の草刈りや海岸清掃、道路のごみ拾いを行っています。例年2万人以上の市民が参加しています。また連合会では小中学生対象に環境美化をテーマにしたポスターコンクールも行っています。今年度は残念ながらコロナの影響により中止しました。私の住んでいる福田地区でも同じ6月に河川クリーンアップ作成と題して堤防のごみ拾いなどの清掃を行っています。12月には一斉海岸清掃を全住民対象に行っています。この両活動が20年以上にわたり継続しており、昨年、県知事表彰を受けました。福田では、5つの地域づくり協議会という組織があり、そちらでも様々な環境活動を行っています。自治会連合会としましては、今後、環境活動をイベント的ではなく、日常生活の中で実践できるようにす</p>
--------------	--

ることが課題ではないかと思っています。環境問題は地球規模で取り組む課題ですが、起点となるのは個人のモラルやマナーだと思います。ポイ捨てをなくしたり、家庭ごみを減らしたり、分別を徹底したり、不要不急の外出を控えたり、そういった日々の実践が大事ではないかと思います。これには、小さいうちからの家庭や学校での環境教育が重要だと思います。

【伊藤委員】

平成 27 年から環境美化指導員をしています。地域の不法投棄やポイ捨てごみの状況を市に報告したり、自分でも回収したりしています。始めたころと比較すると不法投棄が減少しているように感じます。また、私は地元のまちづくり協議会で健康文化部会長として、草刈りなどの行事も担当しています。行事を通じて環境に貢献出来たらと考えています。

【鈴木弥栄子委員】

子供の健康と環境を考える会を作り、母親の目線から日常生活でできる地球環境の改善に取り組んでいます。会ではごみの分別や環境に影響の少ない食器洗いの洗剤に気を配るなどの啓発を行ってきました。また、食品ロスの問題を啓発するため、薬膳料理教室なども行っています。前期の最後の市民会議では、委員さんの中から、工事中の今之浦公園に人工芝が使われる問題が提起されました。人工芝は海洋マイクロプラスチックの原因になるものだから使ってほしくないという意見が多く出たので、私も市の都市整備課の担当者と話をしました。今更やめることはできないということでしたが、今後どんな影響があるのか調査していただくこと、またメーカーさんにもいいものだといわれて使うようにしたから本当に良いものなのか検証を働きかけてくださるといことになり、希望を感じました。私は主婦としての目線で、環境について考えていきたいと思っています。

【北野委員】

竜洋昆虫公園で働いています。特に、環境教育の推進が気になっています。普段から仕事として、子供たちに昆虫や自然について普及活動を行っています。ここ5年くらい、市内の小学校で毎年授業を行っています。低学年に昆虫の授業をしたり、5, 6年生に総合学習の環境に関する授業をしたりしています。子供たちの環境教育はもう少し充実したいという思いがあります。また、竜洋昆虫公園では保全活動は行っていませんが、身近な昆虫がいて、それを知ってもらうことは重要だと思います。せっかく磐田市に昆虫では最高ランクの絶滅危惧種であるベッコウトンボがいるので、単純に環境を守るというだけでなく、磐田の文化としても重要であり、注力すべきだと思っています。

【安間委員】

昭和50年から環境問題に携わっています。いそじ会という消費研究グループに入って活動しています。50年代は大気汚染が問題になっていて、ごみの問題やトレー廃止、レジ袋廃止などの活動を行ってきました。大型の商店ではマイバッグを自分で持ってくると万引きが増えるから困る、と言われレジ袋廃止の賛同を得られませんでした。いまだにそうなのですが、長い時間をかけないと変わらないのかなと感じています。専業主婦ですので、台所からゴミを考えるといことを念頭に頑張っています。磐田市はどのような活動をされているのかなと市民会議に参加することにいたしました。

【大竹委員】

私は浜松ホトニクス（株）で環境管理や労働安全衛生管理を担当し、ISO14001 マネジメントシステム運用や廃棄物に関して統括してきました。その間、会社として2016年に産業廃棄物適正処理功労者として県知事褒章をいただきました。個人としては、少し前になりますが静岡県ごみゼロアイデアコンテストに応募したことがあり、冷蔵庫の食品類の賞味期限管理をすることでフードロスが減らすというアイデアが採用さ

れたことがあります。また、会社の環境保全活動として浜松のNPOお一川桜の水辺の会や地元の中学生とともに豊田川の清掃活動を行ってきました。今年7月に浜松ホトニクスを退職したのですが、この経験を活かして、事業者の立場もわかる市民として微力ながら磐田市の環境に対し協力させていただこうと市民会議委員に応募しました。この磐田市環境基本計画をざっと見させていただきました。教科書通りのことは盛り込まれているのですが、この策定期から環境に関する世の中の考え方が変わってきていると感じます。事業者はこれまでCSR活動を行ってきましたが、現在はそれだけでは足りず、本業での地域貢献が求められています。例えばメーカーであれば生産で生じる廃棄物の資源循環を行い、この小さなサイクルを通じて地域の資源循環に貢献するということです。裾野市がトヨタと協力して「実験都市のウーブンシティ」を作ろうとしているように、磐田市内にも力を持った事業者がたくさんあります。例えばヤマハ発動機のドローン技術があれば、農耕地のどこに耕作放棄地があるのか調査できます。匂いであるとか音であるとか、事業者の技術力を利用して、公害や騒音などの問題を解決できる可能性もあると思います。

資料の19ページや21ページにあるスマートハウス、コンパクトシティは、磐田市の行政だけではできません。事業者も本業の中でSDGsに貢献できるストーリーを考える必要があります。しかしいざ実践するとすると事業者だけではできない。ですから、磐田市の行政と事業者の技術の強みを活かした環境施策ができるとういと考えています。「環境」を切り口として新たな街づくり、街の活性化が推進されることにより結果三方よし（市・市民・事業者）となることでしょう。

【鈴木直仁委員】

ブリヂストン磐田工場に今年の10月から転勤になりました。磐田市についてはまだ知らないことばかりです。

今までは、東京小平市の技術センターと栃木県那須塩原市にある栃木工場・那須工場で環境に関わる活動をしてきました。消臭技術の開発や省

エネ施策の導入、エコピアの森の前身であるB・フォレストの立ち上げ、エコ学習などです。他には、市や県など行政の方と地域活性化に関わる活動を行ってきました。磐田に来て、これまでの栃木や東京と違うと感じたのは、地域とのコミュニケーションです。これまでは様々な形でコミュニケーションをとってきていましたが、磐田工場はコロナ渦ということもあり、あまりできていないように感じています。幸いこうして、市民会議委員として、皆さんとコミュニケーションをとれますので、私のこれまでの考え方など経験がお役に立てればよいと思っています。

【砂川委員】

地元で農業をやって38年ほどになります。農業の現場から見て、昔はアカガエルやホタル、ヤゴなどがましたが、今の川や田んぼでは見られなくなっています。そんな様子を間近で見て環境の悪化を実感しています。農業は大規模化が進んでいますが、機械化にしても、化学肥料や農薬の使用にしても、大規模化はどうしても環境に負荷をかけます。そんな農業の現場にいて、農薬を使う農業は昆虫から微生物まで、生き物を殺す農業です。私はこれを改善しようと15年ほど前から農薬を減らす農業に取り組んでいます。農薬や化学肥料が当たり前になっている農耕も、環境に負荷をかけない農業に変えていけるのではないかと考えています。この場に集まっていらっしゃる皆さんは環境に負荷をかけることを憂いているだけでなく行動されてきている方々なので、経験を持ち寄って環境を良くしていけたらと思っています。よろしくお願いします。

【菊島委員】

環境保全推進協議会の会長という立場でこの会議に参加させていただいています。2点、お話しさせていただきます。1点目、私は磐田市に住んで4年になります。私が磐田市に来て最初に苦労したのがごみの分別でした。今ではこれが当たり前となり、生活の中で行動を変えていくと環境への意識が変わっていくのだと実感しました。企業活動も市民活動においても同じであると感じています。2点目として、私が勤務して

いる工場では敷地内で緑化を推進しており、敷地の約 35%が緑地になっています。また、再生可能エネルギーの活用として風力発電を導入しております。太陽光発電施設もつい先日、新しく竣工した工場に設置しました。工場の使用電力の 7%を再生可能エネルギーで賄っています。昨年は先人からの環境活動の成果として、「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」をいただきました。これまでの活動の成果としていただけたものですが、今後は新たに SDGs に関連付けた企業活動をしていきたいと考えています。

【金原委員】

私はひょうたん池自然を考えよう会の会長をしています。ひょうたん池は市内の西貝地区に存在する周辺 150m の池で、地元で親しまれています。この池の自然を守ろうということで、平成 7 年に公民館と自治会が母体となって会を立ち上げ、現在 120 名弱の会員がおります。26 年間の活動を引き続き後世に伝えたいと考えています。市の協力のもと池の周辺整備やビオトープ造成を行い、植物や水生生物の環境を保全しています。また、市民の皆さんと交流するため小中学生への環境教育やホタル観賞会などのイベントを開催しています。隣接する安久路川の堤防に河川愛護の活動として植えた桜も成長し、春は桜祭りをしています。こういった活動も皆さんの価値観の多様化によって、参加者が減少してきています。会員の高齢化が進み、環境を守る作業活動を中心とした組織運営が難しくなってきました。

この池は小さい池ですが、毎分 1.5 トンの湧水でできています。この地域は遠浅の海を江戸の後期に埋め立てた開拓地で、かつてはひょうたん池を米作りの水ガメとして地域で親しまれていました。こういった歴史も地区民につなげていこうと立ち上げた会ですが、人材の育成が課題です。環境基本計画には市、事業者、市民の三者で推進すると記載されていますが、環境全体の推進を考えたとき母体はやはり行政なのかなと感じています。これからどういう風に展開されるか、関心を持って参加したいと思っています。

【小坂委員】

小坂と申します。名簿では静岡県地球温暖化防止活動推進センターとなっていますが、センターの職員でなくセンターから推薦していただいています。住まいは袋井市で、普段は省エネ住宅を作る仕事をしています。袋井の地球温暖化防止活動推進員として活動しています。袋井の市民環境ネットワークに参加していただき、「家エコ診断士」という資格を活かして家エコ診断をしています。袋井市主催の省エネ診断会などのイベントに参加させていただいたこともあります。磐田市環境基本計画を見せていただき、袋井市と大体ざっくり同じかなと感じました。地元で温暖化防止活動をしています、なかなか広がらない。この場で、環境に関わる様々な人と知り合うことで活動が広がっていくとよいと思っています。

【遠藤委員】

静岡県の環境政策課の遠藤です。業務としては県の環境基本計画や環境教育、地球温暖化対策等を担当しています。今回の磐田市の基本計画を見させていただき、3点お話しさせていただきます。1点目として、方針2の「生物多様性の確保」の中で、ベッコウトンボの調査をされています。今、気候変動で気温上昇がトンボに与える影響について危惧しています。また大変残念なことに、最近のニュースで気象庁の生物季節観測を縮小するという話を聴きました。磐田市で行われているベッコウトンボの生物環境調査は貴重なデータとなりますので是非継続していただきたいと思っています。

2点目に、25ページ各指標の1人1日当たりのごみ排出量です。この排出量は、日本全体で平均すると1人1日当たり約900g強です。静岡県の平均では約880gで、磐田市は市の規模に比較して非常に少ない方です。県内で少ない順位を言いますと1番は掛川市、2番目に菊川市、3番目に藤枝市、そして磐田市と続きます。こういった地域に引っ越しされた

方は慣れないうちはゴミ出しが大変だということも聞きますが、これも地域の皆さんの努力の結果だと思います。

令和2年7月1日から容器包装リサイクル法の省令改正に伴う強制力を持ったレジ袋有料化が始まりました。家の中のレジ袋が減り、その効果を実感しています。今年は感染症の影響で外食が減り、物を買って帰る機会が増えています。例年とは違う生活様式がごみの増え方にどう影響するか関心があります。磐田市のごみ対策課でもその辺りを分析されると次の施策につながるのではないかと思います。

3点目です。エコアクション21の認証登録を継続されているのは素晴らしいことです。こういったものは得てして形式的で形骸化しやすいので、毎年どういった効果があったのか、どういったところが指摘されたのか、市の中で共有していただけるといいのかなと思います。

【佐藤委員】

私は静岡産業大学で学部長をしております。環境の分野としては、この環境市民会議に長年携わっています。私は大学での専門は経営分析や管理会計ですので、企業が研究の対象となります。企業のCSRやCSVは環境への効果だけでなく、企業の発展にもつながっていきます。この20世紀から21世紀にかけて地球環境を守るという観点で、大きく世論が変わってきています。

この磐田市環境基本計画について、ここで1点、私が申し上げたいのは基本方針4の指標である上水道有効率です。静岡県の平均が約89%、全国平均は約92%です。磐田市の目標は88.1%、実績は85.9%です。ここ5年間くらいの推移を見ると、実績が落ちていっている。改善されていません。これは大きな問題なのではないかと思います。要するに漏水が多いということですから、水道管の更新を早めなくてはなりません。道路工事を伴うために費用が掛かるなど、色々な理由で進んでいかないとはいいますが、有効率を上げるのは大事だと思います。ここをぜひ改善していただきたいと思っています。

(7) その他

事務局から、今後の市民会議の予定について説明があった。

(8) 閉会

